

2004年度活動ハイライト

富士通グループの2004年度における社会・環境活動の一部をご紹介します。

“お客さま起点”で 営業部門と ソフト・サービス部門の 組織再編を実施



「お客さまにより近いフォーメーション」をめざして、「お客さま起点」「スピード」「シンプル」をコンセプトとする営業部門とソフト・サービス部門の組織再編を実施しました。これによって、市場の変化や多様化するお客さまのニーズをいち早くキャッチし、システムのライフサイクル全般にわたって富士通グループが一体となってビジネスを支えていく体制を強化しました。

▶ P 20

国内グループ約10万人を 対象とする 環境マネジメント システムを構築



「第4期富士通グループ環境行動計画」では、「環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組みを、2005年度末までにグループ全社で確立する」ことを目標に掲げています。目標達成に向けて、2004年度は富士通の環境マネジメントシステムの仕組みを国内グループ各社に展開。富士通と国内グループ97社、約10万人を対象とする環境マネジメントシステム、ISO14001の統合認証を取得しました。

▶ P 36

スーパーグリーン 製品の開発。 ノートパソコンに 植物系素材を採用



富士通は、2005年春モデルとして、植物系素材の大型プラスチック筐体を世界で初めて採用したノートパソコン「FMV-BIBLO NB80K」を発売しました。(株)富士通研究所、東レ(株)とともに共同開発したこの新素材は、約50%が天然素材(トウモロコシなどのでんぷんを主原料とするポリ乳酸)できており、石油系樹脂と比べて筐体のライフサイクル全体でのCO₂排出量を約15%削減することができます。この製品は、スーパーグリーン製品の条件に適合しています。

▶ P 43

▶ P 58

最新の環境設備を導入した 次世代型LSI グリーンファクトリーが 始動



2005年4月、三重工場(三重県桑名市)に300mm大口径ウェーハ採用のロジックLSIの量産設備をもつ新棟が完成しました。約12,000m²のクリーンルームを擁する新棟は、富士通グループの最新のグリーンファクトリーとして、地球温暖化防止、廃棄物発生削減、化学物質排出削減などさまざまな環境負荷低減策を採用しています。また、世界初の「ハイブリッド免震構造」も採用しています。

▶ P 56

2004 富士通グループ 環境経営報告書が 「優良賞」を受賞



「第8回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞(主催: 東洋経済新報社、グリーンリポーティング・フォーラム)」にて、「2004富士通グループ環境経営報告書」が優良賞を受賞しました。会社としてめざしている方向性が明確で、環境保全活動を定量化し、環境会計も活用して、全社的に環境負荷の削減に取り組んでいる姿勢の伝わる報告書である点が、評価されたものです。これからも、わかりやすい報告書の作成に努めていきます。

▶ P 60